

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ニギス

学名 *Glossanodon semifasciatus*

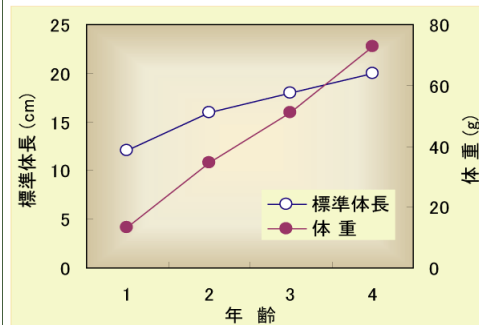
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 5歳
成熟開始年齢: 1.5歳
産卵期・産卵場: 周年産卵、産卵のピークは春季と秋季、産卵場は不明
索餌期・索餌場: 周年、水深100～200m
食性: オキアミなどの浮遊性小型甲殻類
捕食者: ヒラメ、ソウハチ、ムシガレイ、アカムツ等が報告されているが、詳細は不明

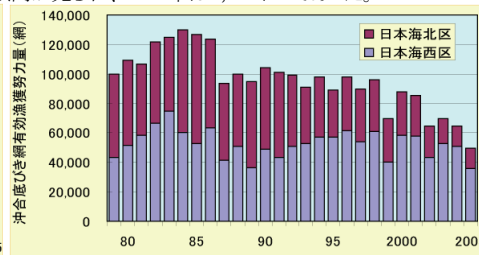
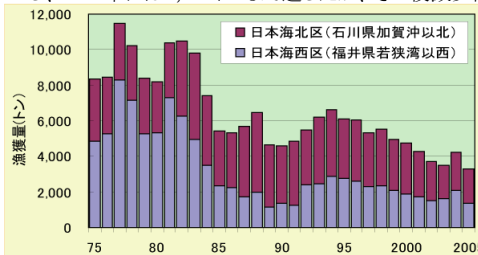


漁業の特徴

本種の主な漁場は青森県～島根県の日本海沿岸と、愛知県および高知県の太平洋沿岸であるが、日本の漁獲量の7～8割が日本海沿岸で水揚げされている。本州沖合の日本海において、本種は水深100～200mに分布しており、主として沖合底びき網と小型底びき網で漁獲されている。

漁獲の動向

漁獲量の推移をみると、1975年以降では1977年の11,463トンピークに、1983年までは8,000～12,000トンで変動していた。しかし、1984年以降減少し、1989～1991年には5,000トン以下にまで落ち込んだ。1992年以降はやや増加し、1994年には6,600トンまで達したが、その後減少傾向が見られ、2005年は3,300トンであった。

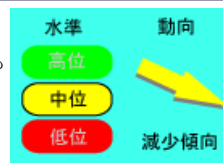


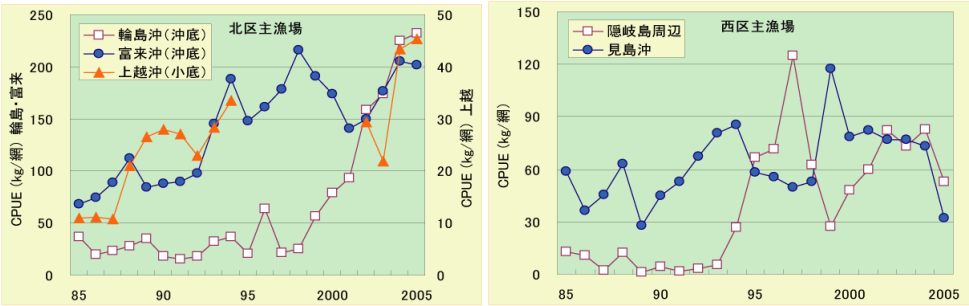
資源評価法

総漁獲量に占める沖合底びき網の割合が低下したこと、漁獲量の多い新潟県と島根県の漁獲が小型底びき網で行われていることから、主漁場の漁獲状況より資源評価を行った。

資源状態

北区(石川県以北)の主漁場を見ると、新潟県と石川県の主漁場におけるCPUEは良好な値を示していることから、資源状態は良いと判断した。西区(福井以西)の主漁場では、隠岐周辺の沖合底びき網漁場を中心にCPUEが低下していること、西区の全府県で漁獲量も下がったことから、資源状態の悪化が考えられた。





管理方策

北区では資源状態も良好であり、漁獲圧も低く抑えられているため、現状を維持しても良いと判断した。西区では沖合底びき網を中心に漁獲圧を減らすべきであると判断した。資源の水準と動向、漁業形態が北区と西区で異なるため、ABCは北区と西区に分けて算出した。北区では過去5年間の平均漁獲量をABClimitとし、その9割をABCtargetとした。西区では過去最も少ない2005年漁獲量の9割をABClimitとし、その8割をABCtargetとした。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit 北区	2,100トン	Cave5-yr	－	－
ABClimit 西区	1,200トン	0.9C2005		
ABCtarget 北区	1,900トン	0.9Cave5-yr	－	－
ABCtarget 西区	1,000トン	0.8・0.9C2005		

資源評価のまとめ

- 北区は資源状態も良く、漁獲圧も適正
- 西区は資源状態の悪化が懸念される

管理方策のまとめ

- 北区は現状の漁獲圧を維持しても良い
- 西区は沖合底びき網を中心に漁獲圧を下げる

資源評価は毎年更新されます。